

～ 昨日の風 明日の風 ～ 経営コンサルタント 独白録

【第46回】「人間の品質」について



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター（福岡市、URL: <http://sien.co.jp/>）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家として、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

九州のある企業の5S活動を入り口にした「組織活性化活動」のキックオフの席上で、経営者が【人間の品質】という言葉を使って、スタッフの意識を鼓舞しました。地域での評価も高く、業界でも認められている組織なのですが、もう一段上を目指そうという時に、多くの企業と同じように人の問題に直面しているのです。「時代にあったインフラの整備も大切だが、それ以前にスタッフの人間性を上げていかなければ前には進めない。今回の活動を通して、レスポンス良く自分から動ける人間を生み出していきたいのだ」という趣旨の話の中で【人間の品質を上げる】という言葉がありました。

本来品質とは、工場で生産された製品や、サービス業が提供するサービスの有する特性、もしくは属性のことを指していて、通常は人間には使いません。人間の場合は「品格」や「品位」という言葉を使うのですが、70名ほどの若いスタッフの多いその組織ではあえて【人間の品質】というシンプルでわかりやすい言葉を経営者が使ったような気がしました。

組織風土を考える

それから2週間ほどして、東京の「後継者育成塾」で2日間講師の仕事をした時、主催者の一人である相模原市の会計事務所のK先生が冒頭の挨拶で「人間の品質を上げていかなければ過酷な競争の中で組織は埋没してしまう」という話をされました。その言葉を聞いた瞬間、九州の社長もK先生も単純な個人の成長のことを言っているのではなくて、組織の仕組みや風土とそこで働く人間の有り様を【人間の品質】と言っていることに気づきました。

ITの発達やコミュニケーションツールの変化によって、組織と個人のつながりも大きく様変わりをしています。しかし、その中で組織の個性を発揮して成果を得るためには、もう一段深い人間形成のプロセスが組織の中にも必要だと言っているのです。

品質特性と人材育成

ここしばらく、この【人間の品質】という言葉が耳にこびりついています。製品、商品、サービス、そして人間の品質。

さて、皆様方の組織の「品質」はいかがですか？ ばらつき、歪み、色ムラ、デザイン、仕上がり具合、安全性、信頼性……。【人間の品質】とは、結構怖い言葉のような気がしています。

過去20～30年のオリンピック開催国を見ると、オリンピック後に大半の国の景気が落ち込んでいます。2004年のアテネ大会はギリシャ危機のきっかけの一つにもなりました。2020年の東京オリンピック後は、オリンピック関連需要の反動減により、間違いなく国内の景気は減速すると多くの専門家が指摘しています。その時に組織としてどのような準備が出来ているかが企業存続の鍵となります。

2020年まで残すところ3年。そのせいか、このところ多くの企業から「組織活性化」に関するお問い合わせを頂いております。多くの経営者や幹部の方々には、時代変化の地鳴りが聞こえているのかもしれませんが、時代変化は、地域、業種、事業規模を問わず押し寄せる大きな波です。その波に備えのない個人や組織がどうなるか、想像して頂きたいと思います。